

プシケ

「15歳で旅にでた」

中国は中世、唐の時代。15歳の少女プシケは、演奏家である父を持ち、幼少期より横笛のエリート教育を受けて育った。

梨園という名の試験制度の1次試験は合格したが、その時に小さなミスを犯した。それがきっかけとなり、プシケは笛を構えるたびに影が現れ呼吸ができなくなる。プシケは、影を振り払うようにより厳しい練習を積むが皇帝を前にした最終試験で再び呼吸を乱し試験に落第、逃げるように旅に出る。

それはシルクロードへの旅、プシケは西域の商人に男装し、ラクダに乗って西へと向かう。

旅の中で様々な人々と出会う。そこには暮らしに溶け合う音楽があった。プシケは初めて、誰かのために笛を吹いた。その音楽は喜びに満ちていた。不思議なことにいくら笛を吹いても影は出てこなかった。

やがてプシケは結婚し子を授かる。幸せな家庭と、充実した音楽活動。そんな時、「西に笛の名手あり」という噂を聞きつけた皇帝から、再び梨園を受けるようにと指令が届く。この時から再び影が現れるようになる。

プシケはあの時の自分ともう一度向き合うために、再び皇帝の前に立つ決意をする。

原作・脚本・演出◆西上寛樹
美術◆浦部裕光 音楽◆庄子智一 制作◆甲斐勝行
キャスト◆松本美里 森下勝史 松島麗

ミスとは何か 1つのミスによって世界が変わった 中世中国の演奏家の物語

～制作にあたって～

私の姪、あおちゃんは14歳。
家に帰ってすぐ、スマホを持って部屋に閉じこもる。
部活も習い事もしない。友達も殆どいない。
誰かと出かけることもない。
家族とも必要以上のことを話さない。
やりたい事もない。学校がつまらない。

でも彼女も子どもの頃は天真爛漫で元気だった。
元気を無くしたのはどうしてだろう。

実は、彼女、所謂「お受験」に失敗している。
他の兄弟は私立のアメリカンスクールに行っており、語学も堪能。
その学校に兄弟で1人だけ入れず、公立の学校へ進学した。

まだ6歳の時、「美里ちゃん、英語、喋れる…？」とふいに
聞いてきた事を今でも鮮明に覚えている。

彼女は、他の兄弟と自分を比べて、小さな身体でたたかっていたのだと思う。
小学生の時、再び受験するも落ちてしまった。
深く傷ついたのだろう。
もう表情や言葉に出すことはなかった。
ただ淡々と毎日を生きている。

本当はどんな事を考えて、どんな事が好きで、どんな事にワクワクするのか知りたいけど、
今は真正面から話すことができない。
これは、彼女だけの話じゃない。
世の中の中高生もそんな状態にある子は沢山いるはずだ。

今作の主人公プシケも、大きな挫折をし、逃げるように旅に出る。
旅で出会った様々な人や出来事から、生きる力を取り戻していく。

プシケの人生を借りて、今、元気を無くしている全ての子どもたちに、
そして、大好きなあおちゃんにほんの少しでも元気になって欲しい。
そんな想いでこの作品を届けます。 松本 美里

